千葉県障害者就業･生活支援センター連絡協議会だより

広報紙　第17号

平成31年1月31日発行
≪発行元≫
千葉県障害者就業・生活支援センター
連絡協議会 会長　藤尾　健二

設立10年　新たなる挑戦へ！

新春の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平成最後の新年を迎えました。昨年の漢字は「災」でしたが、我々障害者の就労支援・雇用支援に携わる者にとっては「動」ではないかと感じています。長期に渡り就労・雇用が進まなかった精神障害者の雇用が義務化になりました。また、これまで身体障害者のみに門戸が開かれていた公共機関において、知的・精神障害者を対象とした雇用の模索がスタートしました。これは我々を驚愕させた中央省庁における雇用率水増し問題がきっかけになっています。何十年にも渡り慣例的に行われてきた水増しが明らかになり、障害者雇用が大きくクローズアップされたことにより、これまで動かなかった大きな山が動いたと言えます。

これだけに着目すると、働きたい障害のある方にとって社会が開かれつつあると言えます。しかしながら単に「門戸を開く」ということでは、安定した就労にはつながらないと考えます。中央省庁では平成31年末までに4,000人の雇用を目指すとしています。民間企業における障害者雇用が活発になるなか、特に都市部では人材確保が難しいとの話を耳にします。単に「働く場」を提供するのではなく「安定して働ける場」を提供することに真摯に取り組むことが重要になります。また、今回の件はある意味「障害者雇用の難しさ」を国が証明したとも言えます。支援機関の必要性・有用性についてしっかりと発信し、結果を残していくことが、今後、我々ナカポツセンターには求められるのではないでしょうか。

10周年を迎えた当連絡協議会は、今後もナカポツセンターの役割をしっかりと検証し、ネットワークを通じて広く発信し、千葉県内の障害者の就労支援ならびに雇用支援に寄与するよう努めてまいります。

今後とも皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。　　会長　藤尾健二

「特別支援学校との連携に関するワーキンググループ」からの報告

「連携」「情報共有」という言葉は、ナカポツ業務の中で様々な場面で聞くことがあります。言葉にすると本当に簡単に言えるものですが…実際には「出来ていないな…上手くいっていないな…」と感じる場面もまだまだ多くありますよね。

連絡協議会として特別支援学校とのワーキングチームを発足し、「連携」や「情報共有」という部分を中心に、今年度も昨年度までの内容をもとに協議を重ねてきました。今年度の活動としては、特に在学中から卒業後の支援の中で、各センターの課題を再度アンケートを取って整理をし、そのうえで協議を進めようということでやってきました。

その中で見えてきたものが、千葉県全体の中での課題として検討すべきことと、圏域ごとの課題として検討すべきものがあるということです。「地域性」、「生徒数」、「それまでの関わり方」、「都市部とそうでない地域」等、それぞれの圏域での状況を我々自身も分かっていたようで「知らなかった」という部分がいくつも見え、まずは現状の把握、という原点から始めることが必要であると気づかされました。

ナカポツへの移行という中で、家族を含めて在学中からどういった関わりでいつから支援がスタートし、定着に向けた動きをより良いものにすべく、今後はアンケート結果を集約し、さらにはナカポツ側からの一方的な話にならないよう、学校側の考えや意向という部分もきちんと伺いながら継続的に議論を進めていきたいと思います。

継続的に協議をしていく中で「お互い分かっているようで実は分かっていない部分があったんだ」というところを少しずつ掘り起こしながら、今後もその地域で暮らしやすい生活のお手伝いをするべく、議論を進めていきたいと思います。　　中里　金木　隆裕

ぶらり～ナカポツの旅

ビックハート柏

『地域ネットワーク～広げよう柏のWA（和・話・輪）～』

柏市はチーバくんの鼻筋から付け根あたり、県北西部に位置する中核指定都市です。

産業は、柏駅周辺にある大・中型店舗を始めとする商業、市内北西部等工業団地を中心とした工業、さらに、かぶを代表とした農業が盛んです。スポーツ振興も盛んで、Jリーグの「柏レイソル」や、女子バスケットボールの「JX-ENEOSサンフラワーズ」等の活躍も目立ちます。魅力と活気に溢れた街それが「柏市」です。

私たち社会福祉法人実のりの会がそんな素敵な街『柏市』へセンターを開設したのは平成18年、今から12年前に遡ります。当初は柏駅に直結したビルの一角に小さな事務所を構えスタッフ3名体制で支援に臨んでいましたが、平成28年から現在の場所（柏駅徒歩7分程）へ転居しスタッフ9名体制で活動を行っております。

振り返ると市内の就労支援を取り巻く環境は、就労移行支援事業所が大幅に増えたこと等をみても開所当初に比べ大きく様変わりをしました。これらの変化は、同時に連携や地域ネットワーク（NW）の在り方にも変化をもたらしたと感じています。例えば、地域意見交換会において開設当初は、小規模かつ限られた機関が参加する形で実施されていましたが、現在は毎回50名近くの方にご参加頂き、福祉サービス事業所、特別支援学校、医療機関、行政、企業等、事業種も多様です。また、最近では若年層の就労困難者へ支援を行っている大学の学生課（キャリアセンター）の方にも会議に参加頂くようになりました。さらに、今年度受託した千葉県事業『障害者就労促進チャレンジ事業』として、精神障害のある当事者の方向けの企業見学会を実施しました。今回は、初めての試みとして、医療機関に全面バックアップ頂いた上で、就労になかなか踏み出せていないデイケア利用中の方をメインターゲットとしました。こういった新しい取り組みにチャレンジできることはひとえに地域NWを地道に築いてきた証であると言えるのではないでしょうか？

私たちはこれまでNWを築く上でいつも『和気あいあいと』『話し合いを重ねて』『輪を広げる』という事を意識的に行ってきました。輪が繋がり広がる事、その中で生まれる化学反応、それは時にストレスや負担に感じることもあります、ありました、現在もあるかも・・・しれません（笑）しかしながら地域で輪が広がる事で安心感やチャレンジする力、可能性が生まれることを考えると今後もその努力は惜しみません。また柏市に限らず一層広い世界での支援のWAも広げていきたい所存です。

さあ皆様もご一緒に♪　『広げよう 就労支援のWA!!』　　佐藤 敦

～これからの障害者雇用を考える！～

平成21年度、当協議会が発足し今年度で早10年。当時と今を比較すると、県内のセンター数も違えば、連携すべき関係機関や企業の数も違い、一番は支援対象者の数が爆発的に増えました。

協議会発足当時から、関係機関との情報交換、連携強化を目的として毎年2回、連絡調整会議を実施してきましたが、10年の節目に「拡大版連絡調整会議」を開催させていただくことになりました。

3月1日（金）13時から千葉市文化センターアートホールにて、関係機関や企業の方を対象として『これからの障害者雇用を考える』をテーマに基調講演、シンポジウム、そして終了後の情報交換会を予定しています。ご興味のある方は、当連絡協議会事務局まで、是非ご連絡下さい。

エール～生き生きと働く、地域で暮らす～

エールは、平成22年4月に開所し早8年。事務所はJR木更津駅から徒歩7分のところにあります。君津圏域（木更津市、袖ヶ浦市、君津市、富津市）が対象で、人口約32万人。東京湾岸沿いには、大きな工場が建ち並び、一方で内陸部は、豊富な自然の恵みがいっぱいです。南より鋸山、マザー牧場、アウトレットパーク、東京ドイツ村など観光地もたくさん。東京湾アクアラインが1997年に開通してからは、交通の便が格段とよくなり都内へバス通勤する方も多くなりました。是非、遊びに来て下さい。

さて、エールは、障害をおもちの方が生き生きと地域で働く、暮らすことの応援隊として、就業支援に加え余暇支援にも力を入れています。交流会事業の他に、就労している家族の方が立ち上げた「働く仲間の家族会」と、「ぽぴあたびだちの会」の事務局をしております。

家族会では、研修会や日帰り旅行、一泊旅行、そして日頃の労をねぎらい関係機関や企業と親睦を図る「就業者を励ます会」などを行います。また、たびだちの会では毎月役員会を行い、当事者たちが企画します。科学クラブ、料理クラブ、ボウリングクラブなど何かしら毎月、活動をしています。科学クラブといっても難しい実験をするわけではなく・・・地下鉄博物館や交通博物館などに行きます。よく働きよく遊ぶ。私たちも一緒に楽しみます。オンとオフ。オンがあってオフがあり、オフがあってオンがある。この切り替えの上手な方は、お仕事も長く定着しています。私たちは支援者側ですが、仕事とは・・・働くことって・・・とか色々と考えさせられる場面に出会います。

↑しょ、しょ、証誠寺・・♫

これからも障害をおもちの方が、地域で生き生きと働き、楽しく暮らすことを応援していきたいと思います。　　杉山　布美江

髙木さんのつ・ぶ・や・き

人気シリーズ！

金銭管理の事で多くの相談があります。「スマホの請求が今月８万円だった」、「家賃滞納でアパートをすぐに出ていくように言われた」、「お給料を全部おこづかいとして使ってしまう」・・・etc。お札や硬貨が見えない電子マネーの決済等、便利になった反面、手軽に買い物ができる怖さがあります。

先日、小学校の家庭教育学級で「おこづかい教育セミナー」があり、参加してきました。小学校１、２年生からこづかいを自己管理させ、金銭感覚を身につけさせる方法の提案です。毎月、お給料のように定額のこづかいを自己管理させる。欲しいものがあったら、我慢して月々少額でもお金を貯める。頑張って貯めたお金で欲しいものを購入したら、きっと大切にするだろう・・・と。また、子供名義の銀行口座を開設して、お年玉や臨時収入等を貯金することも勧められました。

「まだまだ、子供だから親が管理しなきゃ」、「できるわけがない」とか、「欲しいものはなんでも買い与えてしまう」といった親の考え、対応を見直すものでした。

私たちの支援に照らし合わせ考えてみると、金銭感覚を身にけるには、早い段階から丁寧に時間をかけたトレーニングが必要であること、失敗を恐れてなんでも先回りしてしまう支援はその方の力を奪ってしまうこと。気づきのあるセミナーでした。

南関東ブロック経験交流会議報告 IN 長野

11月16日（金）長野県長野市にて障害者就業・生活支援センター南関東ブロック経験交流会議が開催されました。千葉、東京、神奈川、長野、山梨の１都4県で構成されている南ブロックで84名が参加しました。

最初に厚生労働省から、ナカポツ事業の活動実績についての報告がありました。基調講演では「医療機関との連携による就労支援モデル事業」（医療法人友愛会千曲荘病院、ハローワーク上田、上小圏域障害者就業・生活支援センターSHAKE）では、病院のデイサービスとハローワーク、なかぽつとの連携モデルの話を聞く事で、自身の圏域で「是非やってみたい！」という思いになりました。次の「SSTを活用したグループワークによる精神障害者等への職場定着支援」（上伊那圏域障がい者就業・生活支援センターきらりあ）の講演では、SSTを導入するに当たって、職員自ら学ぶ姿勢に熱意を感じました。

最後のグループワークでは、定着支援事業所との連携についてや、チーム支援などをテーマに話し合いました。圏域毎に違う視点や共通する悩みが話し合われる中、自分も普段悩んでいることについて、勇気を出して話してみたところすぐにグループの方々から多くの助言を頂く事ができ、感謝の気持ちと「早速戻ったら実践だ！」という気持ちになりました。

初めての交流会議参加でしたが、多くの物を学びを得た会議となりました。千葉の連絡協議会の方々と食べたお蕎麦や夜のお酒の楽しかった思い出を大切に、これからも頑張りたいと思います。ありがとうございました！

ピア宮敷　鶴岡

担当圏域	名　　称	電話番号
千葉市	千葉障害者キャリアセンター	043-204-2385
船橋市	大久保学園	047-457-7380
市川市・浦安市	いちされん	047-300-8630
習志野市・八千代市・鎌ケ谷市	あかね園	047-452-2718
松戸市・流山市・我孫子市	ビック・ハート松戸	047-343-8855
柏市	ビック・ハート柏	04-7168-3003
野田市	はーとふる	04-7124-0124
成田市・佐倉市・四街道市・八街市 富里市・印西市・白井市・印旛郡	就職するなら明朗塾	043-235-7350
香取市・香取郡	香取就業センター	0478-79-6923
銚子市・旭市・匝瑳市	東総就業センター	0479-60-0211
東金市・山武市・大網白里市・山武郡	山武ブリオ	0475-77-6511
茂原市・長生郡	長生ブリオ	0475-44-4646
勝浦市・いすみ市・夷隅郡	ピア宮敷	0470-87-5201
館山市・鴨川市・南房総市・安房郡	中里	0470-20-7188
木更津市・君津市・富津市・袖ケ浦市	エール	0438-42-1201
市原市	ふる里学舎地域生活支援センター	0436-36-7762

編集後記・広報部会より

昨年は明るい話題もありましたが、どちらかというと暗い話題が多かったと感じます。そんな中、12月にフィギアスケート紀平梨花選手がGP優勝を飾り、その時に自分にとっての今年の漢字は「笑」と答えていたのが印象的でした。平成も終わり今年は誰もが笑顔でいられる１年になればと思います。

広報部会　近藤大介

事務局
千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会
障害者就業・生活支援センター
ふる里学舎地域生活支援センター
千葉県市原市今富1110-1
電　話：0436-36-7762ＦＡＸ：0436-26-7090
E-mail：fg.shien@yukeikai.jp
ホームページ：http://www.chiba-centernw.com/